児童養護施設職員による子どもの自立観の形成に関する研究

ーインケアを担う職員へのインタビュー調査よりー

○　同志社大学大学院博士後期課程　　氏名　梅谷　聡子（9110）

キーワード：自立観、児童養護、インケア

１．研 究 目 的

本研究は、児童養護施設に入所している子どもの自立に影響を与えやすいインケア（施設入所中の支援）を担う職員の自立観を明らかにすることを目的としている。

近年、社会的養護下にある子どもを対象とした自立支援への関心の高まりとともに、措置延長期間の伸長や、奨学金制度などが少しずつ整備されつつある。しかしながら、こうした制度は、退所者の教育機会の保障という側面に偏りがあり、高等教育以外を選択する退所者についての保障は遅れている現状がある。実際、児童養護施設退所者の進学率の低さは､教育機会の少なさのみならず､自己肯定感の低さをはじめとする精神的な困難さや、退所者自身の自立に関する価値観の特徴に要因があると考えられる。こうした現状を、現在の児童養護施設の自立支援に関する施策は十分に反映しているとはいいがたい。子どもの自己肯定感に関するケアや子ども自身の自立に関する価値観は､施設を退所する 18 歳前後に育まれるだけではなく、インケアの中で育まれるものである。とくに、児童養護施設における自立支援については、インケアを担う職員と子どもの信頼関係の重要性が指摘されている（櫻谷 2016)。入所している子どもの生活に密着してケアを行う職員が子どもの自立をどのように捉えているかは、自立支援の内容や子ども自身の自立観の形成に影響を与える要因であると考えられる｡これまでの児童養護施設の自立支援に関する先行研究は、退所後の支援のみに着目したものやインケアにおける自立支援の現状と課題の抽出に留まっている（伊藤 2016、田中 2015)。したがって、本研究では、インケアを担う職員の自立観がどのような背景に打ちされて形成されるのかを明らかにしていく。

２．研究の視点および方法

以上の研究目的を達成するために次の 3 つの視点にたって着目して研究を進めた。

① 施設職員としてのどのような経験が子どもの自立観の形成に影響を与えるか。
② 職員の自立観は職員自身の生い立ちが影響しているか。
③ 職員から見て児童養護施設の子どもたちの自立に特徴はあるか。

以上の 3 点を明らかにするために、本研究では、児童養護施設において実務経験 10 年以上のインケアを担っている職員を対象に、半構造化の個別インタビュー調査を行った。5 施設（1 施設 2 名)、10 名の職員の協力を得た。インタビューの際、対象者の承諾を得て、IC レコーダーを用いて録音を行った。分析は、録音した音声データを文字起こししたテキストデータを佐藤（2008）の質的データ分析法に基づいて行った。また、対象者の基本属性と実施している自立支援の内容を把握するため、質問紙調査も行った。質問紙について

は、事前に対象者へ郵送した。

３．倫理的配慮

本研究に協力を得られた調査対象者に対し、事前に調査に関する説明書、インタビューガイド、質問紙等の書面を郵送した。希望がある場合、インタビュー調査当日に再度口頭で本研究の説明を行った。すべての対象者に同意書により研究参加の同意を得た。

また、本研究は「同志社大学『人を対象とする研究』に関する倫理審査委員会規定」に従い、「同志社大学研究倫理審査会」の承認を得たうえで実施した。

４．研 究 結 果

（１）主観的な自立の尊重と他者に助けを求めることができるという自立のあり方

施設職員の語りより、児童養護施設から自立する子どもたちが社会から要請される自立のあり方と、子どもの心身の育ちの間に乖離がある点が明らかになった。したがって、「その子どもらしさ」「(子どもが）自分がやりたいことをやる」「子どもがそう（自立したと）思ったら自立」というように、子どもの主観的な自立を尊重しようという姿勢がみられる。また、「相談できること」「抱え込まない」「人に頼る」等、他者に助けを求める子どもの自立観が明らかになった。

（２）「育つ者」から「育てる者」への移行

施設職員自身の生い立ちに関する語りより、「親にやってもらったことをやっている」というように自分が親から受けた経験が職員の自立に対する価値に影響を与えていた。一方で幼少期に「どうすれば大人が喜ぶかよくわかった」「親に心配をかけてはいけない」と思っていたという語りからは、施設職員が幼少期に「育つ者」として「育てる者」の他者性を意識していた点が明らかになった。

５．考 察

本研究から、施設職員の自立観が、子どもの主観的な自立や他者の助けを求める自立、職員自らの家庭での経験に基づいていることが明らかになったが、児童養護施設の子どもたちの自立には家庭から自立する子ども以上に様々な社会的制約が伴う。施設職員は、自らの自立観とこれらの社会的制約の乖離において葛藤することが考えられるが、今後は、この点について詳細に検討していく。

【参考文献】

櫻谷眞理子(2016)「児童養護施設退所者へのアフターケアの現状と課題」『子どもと福祉』9,107-111.

伊藤嘉代子(2016)「児童養護施設におけるアフターケアの課題-退所理由に焦点を当てて」『社会問題研究』65(144),17-30.

田中弘美(2015)「児童養護施設の子どもと自立支援」埋橋孝文ほか編著『子どもの貧困/不利/困難を考えるⅡ-社会的支援をめぐる政策的アプローチ』ミネルヴァ書房.

佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法：原理・方法・実践』新曜社.